令和4年度の教育活動等に対する学校評価書

令和5年4月1日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 神宮寺 広美

同学校関係者評価委員会 委員長 野尻 裕子

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○たくましさのある子
「やさしい心を育て、遊びの中で力をつけよう」
- 自己評価に対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ子	園内の自然環境に進んでふれさせる	B	○育てているものに興味をもち、水やりをしたり、図鑑で調べたりすることができた。 ○夏はダンゴムシ、カブトムシの発見、冬は霜柱の発見をした。また、冬にダンゴムシが見られないことに気付いたようだ。 ○ダンゴムシやセミの抜けがらを見付けたり、野菜を子どもたちと収穫したりと楽しめた。 ▲もっと集めた木や枝を使って、遊びにつなげられるとよかった。	B	
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気付かせる	B	○季節に合った絵本や手遊び、歌を行うようにし、自然の変化に気付けるようにした。 ○夏にオクラを育てて、花が咲き、実がなっていく様子を間近で見ることができた。収穫したオクラをお弁当に入れてくる子どももいた。 ○氷を作り、そのときでしか味わえない体験ができた。子どもらしい発見があり、楽しかった。 ▲木の葉の色づく様子を見て、「茶色になっちゃった」等気付く子もいれば、関心を示さない子もいたので、みんなで共有できるときを作れたらよかった。	B	
	子どもが見付けた自然の様子を保育に生かす	C	○子どもが拾ってきた花や実をクラス内で育てたり、飾ったりして、興味をもてるようにした。 ○野菜の葉の裏には虫がいることや、冬には虫がいないことなどを体験して、保育に生かした。 ▲幼稚園内だけの活動では、むずかしいと思う。 ▲泥だんごや落ち葉、虫を見つける子どもたちの姿があるが、その後の保育の活動で取り入れる機会が少ない。	B	実際にふれる機会が少ないので、保育に生かすことはむずかしいだろうが、意識していることは価値がある。
	自然を生かした遊びを活動に取り入れる	B	○夏は色水遊びをして、色の変化を楽しむことができた。 ○どんぐりケーキ、どんぐりマスカラなどを作って遊んだ。園庭の野菜でスタンプ遊びもしてみた。 ○凧揚げに興味をもっていたので、拾った落ち葉に紐をつけ渡すと、うれしそうに走り回る姿が見られた。 ▲子どもたちの仲のよいグループや興味のある子は、進んで遊びに取り入れるが、クラス等の全体の活動にはあまり取り入れていない。	B	
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	B	○ほめて伸ばすことを意識したことで、子どもたちの間でもほめ合い、どんどん自信を付けることができた。 ○上手にできるようになった子に見本を見せてもらうことで、他の子たちの刺激となり、やる気と楽しい気持ちで本番を迎えることができた。 ○子どもたちが練習をいやがらないよう、振付け等負担のないように心がけて行った。 ○運動会での反省を生かして、発表会では、自信をもって舞台に立つことができた。	A	
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育をする	B	○製作や発表会等で、子どもたちからアイデアや意見が出たら聞き、積極的に取り入れるようにした。 ○製作活動等で個別に行っているとき、「この色、素敵だね」「上手になったね」等ほめ、子どものそのときの発想を大切に言葉かけをして、次の意欲につながるようにした。 ○設定した保育が多くなってしまったが、自由遊びでは子どもの発想を大切にしてきた。 ▲時間が限られている中でも楽しめたが、その日だけで終わってしまうのが反省点である。	B	
	言葉の発達や言葉への関心を高めるような保育や環境作りをする	B	○あいた時間があれば、積極的に絵本等を読んだ。言葉遊びの紹介もし、子ども同士で遊ぶ姿が見られた。 ○子どもたちに問いかけをするとき、子どもたちが答えやすい質問や考えやすい言葉かけを配慮した。また、絵本の読み聞かせのときは、言葉の繰り返しを楽しんだ。	A	かるた大会や動物グループの本読みの時間等、本と関わる時間を多くとっている。

			<p>○日常のあいさつをていねいに行うことからはじめ、「入れて」「貸して」「ありがとう」などの会話の機会を大切にしてきた。</p> <p>▲担任の考える室内遊び等で、文字にふれる機会を取り入れようとしたが、学年で活動を取り入れることはなかった。</p>		
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさをたくさん味わわせる	B	<p>○廃材遊びで、子どもたちが十分に楽しみながら取り組めた。日頃からもっと自由な製作ができたらいいと思った。</p> <p>○時間がある遊びのときに、子どもが興味を示すものを置くなどして、身近にふれられるようにした。</p> <p>○どんぐりケーキやこま作り、マラカス作りなど、子どもたちが楽しめるような保育を実践した。</p> <p>○マジックをトントン押すと出る面白い音や、ペンのにじむ様子を見て喜ぶ姿が見られた。</p>	B	
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ機会や遊びを大切にする	B	<p>○発表会以外でも、全身を使って遊べるように、過去の踊りなどをして楽しんだ。</p> <p>○すき間時間にリトミックを取り入れ、ピアノに合わせて動物になりきり、楽しむことができた。</p> <p>○運動会や生活発表会が終わった後も、たまに曲をかけ、自由に踊れる時間を作った。本番のときよりも、活き活きと行っていた。</p> <p>▲発表会シーズンしか、伸び伸びと楽しく表現することができなかった。</p>	A	
思いやりのある子	動物グループの活動を効果的に進める	B	<p>○昨年よりは深くかかわることができたと思う。少しずつ遊ぶ日が増えたらうれしいと感じた。</p> <p>○かわりに途切れがないよう、絵本の日や製作活動を取り入れた。</p> <p>○同じグループの子を誘い合って、進んでグループでの活動に参加する姿が見られた。</p> <p>▲コロナ禍でできない活動もあったが、かわりになるもの考えてもよかった。</p>	A	
	自由遊びの時間を通して、子ども同士がふれ合えるようにする	B	<p>○自由遊びでは、クラスだけでなく、他のクラスの子とかかわる姿が見られ、仲を深めていた。</p> <p>○担任も遊びに入り、様々な子を巻き込んで遊べるようにした。</p> <p>○好きな遊びの時間に、保育者が仲立ちとなり、おにごっこ、かくれんぼ、おいかげごっこ等をして一緒に遊びことを心がけた。</p> <p>▲朝や昼食後、バス待ちの時間だけでなく、もっと自由に遊べる時間がほしい。</p>	A	毎日、朝と昼休みに、年齢関係なく、みんなで遊べる時間が多い。
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に取り入れる	B	<p>○朝の自由遊びでは、他学年とリレーやドッジボールを楽しむことができた。</p> <p>○時間を設けて行うよりも、年長・中児のリレーに入れてもらったり、応援させてもらったりして、年少児なりのふれ合いができた。</p> <p>○リレーやドッジボール等、年長児の行っている所へ、「入れて」と言い仲間に入れてもらえたことで、保育者がいなくても仲間に入れてもらおうとする姿が見られた。</p> <p>▲もう少し保育者が意図的に設定すればよかった。</p>	B	
	子どもが絵本好きになるように、時間を確保したり環境を整えたりする	B	<p>○季節の絵本を黒板前に飾り、自由に読めるようにした。</p> <p>○朝の会が始まるまでに、絵本を読む時間をとったり、帰る前に紙芝居を読んだり、絵本や物語にふれる機会が多かった。</p> <p>○「これ読んで」と子どもたちが持ってきた本を4～5人の子どもたちに読み聞かせたり、子どもたちが見せに来てくれた絵本のページを一緒に見て、「すごいね」「おもしろいね」等共感したりした。</p> <p>▲絵本を読む時間や読み聞かせの時間は多く取り入れたが、自ら読もうと思える環境は作れていなかった。絵本棚の環境を変える等して、変化を作ればよかった。</p>	A	
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	<p>○すぐに保育者が声をかけるのではなく、子どもたち同士で話し合ったり、助け合ったりできるよう見守ることを増やした。</p> <p>○互いを知れるように、思いを伝え合うことを大切にかかわるようにした。たくさん話をし、かかわることで、理解し合い、仲を深めることができた。</p> <p>○満3歳児が入園してくると、クラスの子がお世話をしてくれていた。</p> <p>○輪の中に入れていない子等には、回りの子どもに保育者が声かけを行うことで、手を引いたり、言葉かけをしながら助け合ったりする姿が見られた。</p>	A	
たくましさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	B	<p>○鉄棒やなわとびなどを使って、体の使い方を教えた。ほめて伸ばし、安心してできるようにした。</p> <p>○体操の後、遊具をしたり、身体を動かしたりする活動を担任が考えて、取り入れた。</p> <p>○年齢に合った内容の運動遊びを行うようにしていた。</p> <p>▲遊びの中で育つ力を育むために、もっと自由遊びの時間を確保したい。製作や行うべきことが多く、十分に時間をとれなかった。例えば、豆まきの製作は鬼のお面のみでいいのでは？お屋さんごっこで、全園児分の製作は子どもたちにとっても負担だったように思う。→作ったものを売りがっていた。</p>	A	
	カードを利用するなどして、目標をもちやすくしたり、自ら運動しようとする意欲を高めたりする	B	<p>○カードがあることで、一目で今の自分の力を知ることができ、目標も立てやすく、また、友達同士で励まし合う姿が見られた。達成感が味わえた。</p> <p>○カードを作り、子どもたちの道具箱に入れておくことで、自分のやりたいときに、練習やテストをすることができた。</p> <p>○年少児なので、まだカードなどを使用せず、様々な遊びの中で体を動かして、運動できるように心がけた。</p> <p>▲むずかしくなるにつれ、あきらめがちになってしまったため、声かけの工夫が必要だった。</p>	A	個人差があるが、カードを目標に楽しく取り組んでいる。

<p>いろいろな運動遊びを紹介する</p>	<p>B</p>	<p>○時間に余裕があるときには、ちょっとした運動遊びを取り入れるようにした。 ○ルールのある遊びとして、転がしドッジボール、しっぽ取りゲーム等を楽しんだ。 ○ボールやリレー、鉄棒等、身体を使って、ルールを守りながら楽しむことができた。 ▲カードの種目がメインになってしまい、あまり紹介できなかった。自分自身の遊びや運動のレパトリーを増やしたい。</p>	<p>A</p>	
<p>食に関心をもたせ、マナーやバランスのよい食事にも配慮する</p>	<p>B</p>	<p>○黙食だったため、落ち着いて食べることができていた。 ○給食で何が入っているのか不安そうにする子に対して、「これは○○（食材）から作っているんだよ」と、興味をもってもらおう声かけをした。 ○言葉は少なめに、毎日の気付きで、自ら身に付いていけるように働きかけた。 ▲三角食べなどを教えて、バランスよく食べられるようにしたらよかった。</p>	<p>B</p>	
<p>友達が少ない子や、孤立しがちな子の支援を心がける</p>	<p>A</p>	<p>○保育者が間に入ったり、積極的な子に声をかけたりして、輪に入れるようにしたため、孤立する子はいなかった。 ○気が合いそうな子と同じグループにし、かかわるきっかけを作ったり、担任と一緒に遊ぶことで他の子ともかかわれるようにしたり、援助を行った。 ○年少児なので、まずは保育者と子どもの関係を大切にしながら、保育者は友達に目が向けられるような言葉かけをした。また、みんなで一緒に遊ぶことで、友達と一緒にいることへの楽しさを感じさせるようにしてきた。 ○保育者と一緒に遊ぶ中で、友達とのふれ合いも楽しめるようになってきた。</p>	<p>A</p>	
<p>継続して運動に取り組むような工夫をする</p>	<p>B</p>	<p>○一人一人に具体的な目標を伝えたり、できるようになったことはクラス中で一緒に喜んだりして、意欲的に取り組めた。 ○朝の体操終了後、鉄棒、のぼり棒等に取り組ませ、保育者が意図的にはたらきかけるようにしてきた。 ○まずは興味をもてるよう、きっかけ作りを行ってきた。 ▲運動カードの活動時に取り組んでいる子が多いが、苦手な子は好きな遊びの方へ移ってしまうため、声かけが必要であった。</p>	<p>A</p>	
<p>令和5年度に向けての改善策</p>			<p>上記以外の意見(抜粋)</p>	
<p>☆本年度もコロナ禍のため、活動が数量的にも内容的にも制限されたが、子どもたちの健康や安全を考えれば仕方がなかった。動向を的確に捉え、今後の活動の在り方について考えていきたい。</p> <p>☆日頃の保護者の様々な意見や、学校評価における意見を尊重し、園運営に随時役立てていく方針は、今後も継続していく。</p> <p>☆本園の子どもたちのよい面で、やさしい心をもっている子、やるべきことにきちんと取り組む子、が多いことがある。このことについては、よい伝統としていきたいため、指導の継続、向上を図っていく。</p> <p>☆本年度、全国的に問題となった通園バスに関する業務、保育における子どもたちへのかかわり方については、確認、徹底したことを忘れずに、今後も気を引き締めてのぞんでいく。</p> <p>☆カリキュラムに基づいた保育活動を行うことが基本であるが、自由遊びの時間をもっと確保したい。週に1日は全体の朝の体操をなくし、各クラスの時間、自由遊びの時間に充てるようにしたい。</p> <p>☆本年度は、新たな重点目標「やさしい心を育て、遊びの中で力をつけよう」を設定し、取り組んできた。この目標については、次年度も継続し、特に遊びの中でつける力を明確化していきたい。</p>			<p>・動物グループの活動は、上の子が下の子をお世話できるよい機会である。</p> <p>・園内で、いろいろな野菜に触れられることは、本園ならではのよさである。</p> <p>・ちょっとしたことでも、先生から子どもことで電話をくれるので、とても安心する。</p> <p>・コロナ禍のため、この3年間で、遠足等の園外活動がいくつか中止になったことは残念だった。</p>	